



麻しん風しん混合予防接種 MR2期のお知らせ

お子さまが、上記予防接種の対象となっております。各自、接種期間内に指定医療機関にて接種されますようお願いいたします。

対象者・接種期間

小学校入学1年前の間に相当する年齢の者

※接種期間を過ぎると、全額自己負担(約1万円程度)になります。

★医療機関

※ワクチン確保のため、1週間前までに必ず予約を入れてください

竜郷中央クリニック (62-2525)	肥後医院 (62-3023)	肥後診療所 (62-4023)
みんなの診療所 (62-5010)	県立大島病院 (52-3611)	政小児科内科医院 (52-0017)
奄美中央病院 (52-6565)	ファミリークリニック ネリヤ (57-7177)	せきクリニック (55-0070)
むかいクリニック (55-1777)	かずや内科 (53-6020)	朝沼クリニック (55-1555)
つばたクリニック (57-7771)	記念クリニック (55-2271)	笠利病院 (55-2222)

一部の医療機関のみ掲載しています。

その他の医療機関で接種される場合は子ども子育て応援課へお問い合わせください。

★接種方法・費用

★持参するもの：**母子健康手帳、予診票** ★接種料金：**無料（接種期間内に限る）**

★他の予防接種との接種間隔：**27日以上あけて**次の予防接種を受けるようにしましょう。

★**必ず保護者同伴**で受診してください。お子様だけの接種は認められません。

★予防接種の効果・副反応

☆予防接種を受けると95%以上の方が免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、麻しんや風しんにかかることを防ぐことができます。

ただし、予防接種により軽い副反応や、極めて稀ですが重い副反応がおこることがあります。予防接種後にみられる反応としては、下記のとおりです。

- ・主な副反応は発熱(接種した者のうち20%程度)や、発疹(接種した者のうち10%程度)です。これらの症状は、接種後5～14日の間に多くみられ、通常1～3日でおさまります。
- ・まれにアナフィラキシー様症状(ショック症状、呼吸困難など)等が報告されています。



★お問い合わせ先：子ども子育て応援課 ☎69-4555 予防接種係



予防接種前の注意事項について

接種を受けることができない お子さん	接種を受ける際に注意が必要なお子さん
①明らかに発熱(37.5℃以上)をしている場合 ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合 ③その他、医師が不適当な状態と判断した場合	①先天性代謝異常、心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、その他何らかの病気、基礎疾患のある人 ②予防接種の接種液の成分でアナフィラキシーを起こしたことのある人 ③接種後2日以内に発熱及び全身性発疹等の症状がみられたことのある人 ④過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことのある人 ⑤過去に免疫不全と診断された人及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる人 ⑥免疫機能に異常のある疾患の人及び免疫抑制をきたす治療を受けている人 ⑦ワクチンの製造過程における培養に使用する卵の成分・抗生物質・安定剤などでアレルギーがあるとされたことのある人

接種後の注意点

- ①予防接種を受けた後 30 分程度は、急な副反応が起こることがあります。医療機関で様子を見ましょう。
- ②接種後、1 週間程度は副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこするのはやめましょう。
- ④当日は、激しい運動は避けましょう。

麻疹(はしか)ってどんな病気？

麻疹ウイルスの空気感染(飛沫感染)によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。

◎**主な症状**: 発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は 38℃前後の熱で、いったん下熱後、再び 39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。

◎**主な合併症**: 気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などがあります。患者 100 人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は1～6人、脳炎は約1,000人に 1～2人の割合で発生がみられます。また亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という慢性に経過する脳炎は約 10 万例に 1～2例発生します。

風しんってどんな病気？

風しんウイルスの空気感染(飛沫感染)によって起こります。

◎**主な症状**: 軽いかぜ症状で始まり、発疹、発熱、首の後ろのリンパ節が腫れるなどが主症状です。眼球結膜の充血もみられます。発熱も発疹も3日程度で治るので「三日ばしか」と呼ばれることがあります。

◎**主な合併症**: 関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者 3,000 人に 1 人、脳炎は患者 6,000 人に 1 人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

★麻疹(はしか)、風しんの国内発生が報告されています。

★妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。**夫からの感染**の報告もあります。

⇒2回接種(1回目は1歳児が受けるMR1期)によって、ワクチン効果が高まり、病気の発生や重症化を防ぐことができます。